



協働・連携事例集 2022

2023年6月30日現在

- No.1** 生命保険会社が住宅供給公社、市社会福祉協議会と連携し、団体のお祭りで健康チェックコーナーのブースを出展
第一生命保険(株)厚木支社×(福)座間市社会福祉協議会×神奈川県住宅供給公社
- No.2** 企業2社が市と連携し、夏休みに小学生向けの環境教室を開催
(株)デコリア×ウォータースタンド(株)×小田原市環境政策課
- No.3** 同じ地域に所在するショッピングモールと植物園の連携
フレスポ小田原シティーモール(大和リース(株))×小田原フラワーガーデン(横浜緑地(株))
- No.4** NPO、市民活動支援施設、ショッピングセンターの連携による環境カードゲームを活用した環境問題の啓発
NPO法人 SoELa×横須賀市立市民活動サポートセンター×nojima モール横須賀((株)ノジマ)
- No.5** NPO、中高生、ショッピングモール、市民活動支援施設の連携で地域版環境カードゲームを作成・活用し、地域の環境問題を啓発
NPO法人 SoELa×函嶺白百合学園×フレスポ小田原シティーモール(大和リース(株))×おだわら市民交流センターUMECO
- No.6** 全国展開するピザチェーン店と「サポートマーク」の普及啓発活動に取り組むNPOの連携
(特非)日本サポートマーク普及協会×日本ピザハット(株)
- No.7** 障がいのある方や福祉業界を応援する企業と、障がいのある方にスポーツトレーニングや競技会の機会を提供するNPOの連携
(株)Nextwel×認定NPO法人スペシャルオリンピックス日本・神奈川
- No.8** 都市公園の指定管理者と花苗栽培の就労支援事業所が連携し、障がいのある方が作った寄せ植えの鉢を公園内に設置
横浜緑地(株)×(福)開く会フラワーアーク
- No.9** 地域の高齢者の居場所づくりを行っている市民団体と大学の地域連携・貢献センターとの連携
はあと♡さろん×神奈川工科大学地域連携・貢献センター
- No.10** NPOが中学校と連携し、コーヒーの木の栽培を通じてSDGsや人権問題を学ぶ「SDGs学校農園プロジェクト」を実施
(特非)湘南DVサポートセンター×東京都世田谷区立用賀中学校
- No.11** 一般社団法人が小学校と連携し、校庭での森づくりや森の講座等の環境教育を継続して実施
非営利型一般社団法人 Silva×葉山町立葉山小学校
- No.12** NPOと地区社会福祉協議会が連携し、地域の高齢者を対象にした交流会にて「脳トレリズム体操」のレッスンを実施
箱根町仙石原地区社会福祉協議会×NPO法人ダンスライフコミュニケーションズ
- No.13** 三浦半島での災害に備え、三浦・葉山地域における防災活動団体の連携
横須賀災害ボランティアネットワーク×逗子災害ボランティアネットワーク×葉山災害ボランティアネットワーク×そなえるネットワークみうら
- No.14** 乳がん予防啓発団体と企業が連携し、社員向け乳がん講座の開催や乳がん予防啓発事業の取組みを支援
KDDI(株)×(一社)乳がん予防医学推進協会
- No.15** アートで地域を盛り上げよう！高校と鉄道会社と地域の企業の協働
県立小田原城北工業高校×(株)デコリア×伊豆箱根鉄道(株)×小田原フラワーガーデン
- No.16** 団体や企業が「めだか米」を通じて地域の田んぼとメダカを守る
ウエインズトヨタ神奈川(横浜トヨペット・トヨタカローラ神奈川・ネットトヨタ神奈川)×(一社)桑原・鬼柳めだか米の会×(一社)おだわら農人めだかの郷×めだかサポーターの会

次のページに続くにゃ



No.17 見方を変えて、味方になろう！～発達に多様性のあるユニークな子どもたちを応援するため、地域に根差した店舗でのイベント開催～

いろんなカタチ鎌倉×MUJlcom ホテルメトロポリタン鎌倉

No.18 コロナ禍でも子どもの心を育てる音楽発達支援で団体と企業が協働連携

(一社)音楽発達サポート協会×(株)ココラポ

No.19 横須賀市の職員が繋ぐ大学ゼミと地元農家・企業の地域課題解決

(一社)KAKEHASHI×立教大学法学部薬師丸ゼミ住民班×たのし屋本舗×鈴也ファーム×プロ雅農園×Bell Tree Farm×井上農園×(株)MITO CREATIVE×(株)良品計画 無印良品コースカベイサイド横須賀店

No.20 子育て家庭を地域の飲食店や事業所、農園と連携して応援する“子ども弁当”

NPO法人湘南まぜこぜ計画×中華料理三番×藤沢本町たいこや×よしえめし×Nico's Kitchen×ほうとうの店元祖へっころ谷×駅前直売所八〇八カフェ×はっぴーあわー×レストラン リッシュ×坊さんキッチン en×和食ダイニング七彩×光友会×おむすびだいご×ハウス・もん×ミンナミ食堂×香港軒×ぐるんとびー×居酒屋・和食の店 まるま×からあげ専門店 鶏笑×まるほ農園

No.21 酒匂川に関する環境保全の目的でつながった企業とNPOの連携

(株)神鋼環境ソリューション×めだかサポーターの会

No.22 手話通訳団体と福祉従事者等へのIT支援NPOがコロナ禍で協働

横浜市手話通訳奉仕団たつの会×(特非)NPO福祉支援ゆうやけネット

No.23 「寄付でつなぐ未来へのバトン2022」寄付月間賛同企画イベントの開催

寄付月間 2022@日本大通実行委員会

協働・連携に関する情報を
寄せてほしいにゃ



神奈川県では、企業・NPO・大学など多様な主体に出会いの場や学びの機会を提供し、協働・連携を促進することを目的とした「企業・NPO・大学パートナーシップ支援事業」として、次の2つの事業を実施しています。

＊ 「企業・NPO・大学パートナーシップミーティング」（2012年度～）

地域課題の解決に向けた、企業、NPO、大学等多様な主体の出会いと、連携のきっかけを作り出す場として開催。

＊ 「スタディツアー」（2014年度～）

協働が上手く進んでいる事例や先進的な取組みを行っている企業・NPO・大学等の現場を訪問して学び、参加者が自組織に持ち帰り実践していく学びの場として開催。

発行：神奈川県政策局政策部NPO協働推進課

この冊子には、NPO協働推進課にお寄せいただいた協働・連携に関する情報のうち、2023年6月30日現在、掲載することについて関係者のご了承をいただいた事例のみを掲載しています。

No.1 生命保険会社が住宅供給公社、市社会福祉協議会と連携し、団地のお祭りで健康チェックコーナーのブースを出展

【実施主体】

第一生命保険株式会社厚木支社×社会福祉法人座間市社会福祉協議会×神奈川県住宅供給公社

- 2023年1月に行われた「企業・NPO・大学等パートナーシップミーティング2022 in 厚木・座間・綾瀬」をきっかけに知り合った、第一生命保険株式会社厚木支社、社会福祉法人座間市社会福祉協議会が連携し、2023年3月に神奈川県住宅供給公社が座間市社会福祉協議会と協力して座間東原団地にて開催した「ふれあい祭り」にて、第一生命保険株式会社厚木支社が「健康チェックコーナー」のブースを出展しました。
- 座間東原団地には、高齢者が多く住んでいらっしゃるということで、「健康チェックコーナー」では、「隠れ脳梗塞チェック」「血管年齢測定」「握力測定」を実施しました。「ふれあい祭り」は、「世代をつなぐふれあいづくり」を目的に開催された団地のお祭りです。当日は雨天のため集会所内にて規模を縮小しての開催となりましたが、団地の住民を中心に、来場された様々な世代の方々に健康に関するチェックや測定を行っていただくことで、楽しみながら健康について考えていただくよい機会となりました。
- 第一生命保険株式会社厚木支社は、今後も、他の団体や企業等と様々な形で連携していきたいと考えています。



No.2 企業2社が市と連携し、夏休みに小学生向けの環境教室を開催

【実施主体】

株式会社デコリア×ウォータースタンド株式会社×小田原市環境政策課

- 2021年2月に行われた「企業・NPO・学校のつながり 2020 in 小田原」をきっかけに知り合った、株式会社デコリアとウォータースタンド株式会社が、小田原市環境政策課と連携し、2022年8月に小学生向けの環境教室「夏休み子ども環境教室」を開催しました。



- まず、出前授業として、株式会社デコリアとウォータースタンド株式会社が、それぞれの企業のSDGsや環境問題に対する取り組みについて説明。その後、マイタンブラー製作のワークショップを行いました。



- その後のワークショップでは、参加した子どもたちが、株式会社デコリアから提供された製造時に製品として使用出来ず廃棄になってしまう黒板壁紙『Blackboard』※に自由に絵や文字を描き、出来上がった紙をクリアケース型のタンブラーに入れ、世界で1つだけのマイタンブラーを作りました。そのタンブラーを使ってもらい、ペットボトルのごみを減らすことで、環境負荷の軽減につながる行動を体験してもらいました。

- 環境教室には、小田原市内在住の小学3年生から小学6年生13名が参加しましたが、「環境問題に対する取り組みは、マイタンブラーを使うことでペットボトルのごみを減らす取り組みのように、一人ひとり小さなことでも出来ることから行うことが大切であり、郷土の偉人である二宮尊徳の言葉『積小為大』のとおり、小さなことの積み重ねがやがて大きな成果になる」というメッセージを伝えました。参加した子どもたちは、出前授業を熱心に聴き、ワークショップに楽しんで取り組んでくれました。

- 2023年度もこの3者が連携して「夏休み子ども環境教室」を開催する予定で、今後も、子どもたちに身近なことから環境問題を意識した行動に取り組んでもらうため、協働・連携し、実施していきたいと考えています。



※ 『Blackboard』とは、株式会社デコリアが製造し、株式会社サンゲツが販売するグッドデザイン賞・キッズデザイン賞・神奈川なでしこブランド認定商品になった、黒板のようにチョークで自由に描き消しできる壁紙。

No.3 同じ地域に所在するショッピングモールと植物園の連携

【実施主体】

フレスポ小田原シティーモール（大和リース株式会社）×小田原フラワーガーデン（横浜緑地株式会社）

- ・小田原市に所在するショッピングモールであるフレスポ小田原シティーモール（大和リース株式会社）と、同じく小田原市に所在する植物園である小田原フラワーガーデンが、2021年2月開催にオンラインで開催された「企業・NPO・学校のつながり2020 in 小田原」で出会い、2022年4月から連携が始まりました。
- ・小田原フラワーガーデン、市民ボランティアの方、近隣企業の方、フレスポ小田原シティーモールが協働でフレスポ小田原シティーモールの南館中央公園花壇及び北館1階プランターの花の植替え及び管理を、毎月2回から4回、1回あたり2時間程度、定期的に行っています。



- ・花壇のあるところは、元々低木の植樹された緑地でしたが、今や、季節ごとに美しい花々が咲き、フレスポ小田原シティーモールのお客様や近隣に住む方の目を楽しませています。また、近隣に住む方からは、「きれいにされていますね。」「ありがとう。」などの励ましのお言葉をたくさんいただきました。
- ・現在では、さらに他の近隣企業や市民ボランティアの方も活動に参加するなど、ボランティアの輪が広がっており、今後も引き続き連携して活動を続けていく予定です。

No.4 NPO、市民活動支援施設、ショッピングセンターの連携による環境カードゲームを活用した環境問題の啓発

【実施主体】

NPO法人 SoELa×横須賀市立市民活動サポートセンター×nojima モール横須賀
(株式会社ノジマ)



- ・エンタテインメントの手法で社会問題の啓発・教育活動を行っている川崎市のNPO法人 SoELaと、横須賀市内の様々な分野の市民活動を支援している横須賀市立市民活動サポートセンターが、2021年2月にオンライン（Zoom）で開催された「企業・NPO・学校のつながり 2020 in 小田原」で出会い、連携が始まりました。

- ・横須賀市立市民活動サポートセンターの職員が参加した「企業・NPO・学校のつながり 2020 in 小田原」のオンラインでのグループディスカッションで、NPO法人 SoELaの活動内容を聞き、是非横須賀で、NPO法人 SoELaが実施している環境教育のワークショップを開催したいと考え、アプローチしたのがきっかけです。



- ・NPO法人 SoELaは、2008年に慶応義塾大学湘南藤沢キャンパスの学生が開発したトレーディングカードの手法を活用した子ども向け地球環境カードゲーム「My Earth」を活用した子ども向け環境教育事業を展開。2020年度からは、地域の生態系をカードゲーム化して、遊びながら楽しく環境問題を学べる教育コンテンツの普及に力を入れています。

- ・「My Earth」は、「地球守護（青い地球）生き物カード」と「環境破壊（赤い地球）地球温暖化カード」に分かれて戦うロールプレイング型の対戦カードゲームで、対戦時間は1回あたり10分から20分、小学生から遊べる内容になっています。



- ・2022年8月には、横須賀市産業交流プラザ交流サロンにて、また2023年1月にはnojima モール横須賀（株式会社ノジマ）が趣旨に賛同して会場

を提供し、「My Earth」無料体験会を開催。環境問題を知り、自ら地球の環境保全に行動を起こすきっかけづくりの場として開催しています。

- ・今回は、既存の「My Earth」である「多摩川（川崎市）」版及び「相模湾（小田原市）」版で体験してもらいましたが、将来的には「横須賀」版作成を目指し、今後も引き続き継続的に連携してイベントを実施する予定です。



No.5 NPO、中高生、ショッピングモール、市民活動支援施設の連携で地域版環境カードゲームを作成・活用し、地域の環境問題を啓発

【実施主体】

NPO法人 SoELa×函嶺白百合学園×フレスポ小田原シティーモール（大和リース株式会社）×おだわら市民交流センターUMECO

- ・2021年2月にオンラインで開催された「企業・NPO・学校のつながり2020 in 小田原」での出会いや、おだわら市民交流センターUMECOを通じ、小田原市に所在するショッピングモールであるフレスポ小田原シティーモール（大和リース株式会社）とエンタテインメントの手法で社会問題の啓発・教育活動を行っている川崎市のNPO法人 SoELa、箱根町に所在する函嶺



白百合学園中学校・高等学校が出会い、連携が始まりました。

- ・NPO法人 SoELa は、2008年に慶応義塾大学湘南藤沢キャンパスの学生が開発した地球環境カードゲーム「My Earth」を活用した子ども向け環境教育事業を進めています。2020年度からは、地域の生態系をカードゲーム化して、遊びながら環境問題を学べる

教育コンテンツを展開。おだわら市民交流センターUMECOを通じ、箱根町等の協力を得て「My Earth 箱根パッケージ」を制作、また、小田原市や地元の関係企業、団体、水族館等の協力を得て、函嶺白百合学園中学校・高等学校の生徒と連携し、小田原地域や相模湾の生態系を調べ、また、クラウドファンディングで支援を募り、「My Earth 相模湾パッケージ」を1,000セット制作することができました。



- ・さらに、制作した「My Earth」を広めるため、2022年5月以降、フレスポ小田原シティーモールやおだわら市民交流センターUMECOにて、「My Earth 相模湾パッケージ」を体験していただくワークショップ「My Earth 体験会」を開催。当日は、函嶺白百合学園中学校・高等学校の生徒がファシリテーターとして来場者にルールを説明し、制作したカードも販売しました。子どもから大人までたくさんの方に来場いただき、大盛況でした。
- ・フレスポ小田原シティーモールでは、2023年秋以降にも開催を予定しており、引き続き連携して「My Earth」を普及させ、地域の身近な環境について興味・関心を持ち、環境問題を考えるきっかけとなるよう環境教育を進めていく予定です。

No.6 全国展開するピザチェーン店と「サポートマーク」の普及啓発活動に取組むNPOの連携

【実施主体】

特定非営利活動法人日本サポートマーク普及協会×日本ピザハット株式会社

- ・特定非営利活動法人日本サポートマーク普及協会は、周囲の配慮や援助が必要な方を助ける意思表示のマークである「サポートマーク」の正しい知識の普及啓発活動等を行う横浜市所在のNPO法人で、2022年12月から横浜市のSDGs認証制度「YーSDGs」に認証された団体です。
- ・一方、日本ピザハット株式会社は、ピザのデリバリーを中心に全国で520店舗以上を展開している世界最大級のピザチェーン「ピザハット」を展開する企業で、本社は同じく横浜市に所在します。



ピザハットはサポートマークの活動に賛同しています

サポートマークに賛同する旨のステッカー



ピザハット店頭にてステッカーを掲出

- ・SNSを通じて、日本ピザハット株式会社が特定非営利活動法人日本サポートマーク普及協会の活動を知り、その活動に賛同し、特定非営利活動法人日本サポートマーク普及協会と日本ピザハット株式会社が2023年2月から連携を始めました。

- ・連携の具体的な内容は、①ピザハットホームページでの連携開始のプレスリリースの公開、②ピザハット店舗の入り口、配達バイクに「サポートマーク」の活動に賛同する旨のステッカーの貼付、③ピザボックスへの印刷、④ピザハット社員やアルバイト店員による「サポートマーク」賛同バッジの着用、⑤ピザハット社内報での取組みの紹介等で、ピザハットは積極的に「サポートマーク」の普及活動を促進していきます。



ピザハットはサポートマークの活動に賛同しています

ピザハット公式サイトでもサポートマークへ賛同の旨を照会



(左) 特定非営利活動法人 日本サポートマーク普及協会 池田 勸 理事長

(右) 日本ピザハット株式会社 中村 昭一代表取締役社長

- ・日本ピザハット株式会社は、この活動を通し、目の前のお客様に喜びを届けるだけではなく、「ピザのチカラ」で明るい社会の実現に貢献していきたいと考えており、今後も特定非営利活動法人日本サポートマーク普及協会「サポートマーク」の普及活動を促進していきます。

No.7 障がいのある方や福祉業界を応援する企業と、障がいのある方にスポーツトレーニングや競技会の機会を提供するNPOの連携

【実施主体】

株式会社Nextwel×認定NPO法人スペシャルオリンピックス日本・神奈川

- 株式会社Nextwelは、福祉系団体の集客や事業の仕組み化の伴奏支援、NPOや福祉事業所と障がい者の新たな仕事づくり、福祉と企業とのコーディネート、Webマーケティング支援等に取り組んでいる川崎市のスタートアップ企業です。「まだ見たことのない福祉へ」というビジョンを掲げ、障がいの有無に関わらず、誰もが才能を発揮できる世の中にするという理念のもと活動しております。その一環として、障がいのある方も高齢者も誰もが見やすく使いやすいWeb環境、ウェブ



アクセシビリティの認知拡大と仕組みの構築のため、認定NPO法人スペシャルオリンピックス日本・神奈川に協力を得て、クラウドファンディングで支援者を募り、認定NPO法人スペシャルオリンピックス日本・神奈川のホームページをウェブ

アクセシビリティに配慮したホームページにリニューアルしました。

- 認定NPO法人スペシャルオリンピックス日本・神奈川は、知的障がいのある方たちに様々なスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を、年間を通じ提供している国際的なスポーツ組織「スペシャルオリンピックス」の国内活動を推進する組織「公益財団法人スペシャルオリンピックス日本」の地区組織で、事務局は横浜市に所在し、現在約400名のアスリートがトレーニングに参加しています。クラウドファンディングで支援を募ることで、視覚障がい・発達障がい・四肢障がい・軽度知的障がいなどさまざまな障がい当事者とチームを編成し、それぞれの観点からホームページの使い勝手を診断し、使いにくい部分を追求・改善するウェブアクセシビリティ診断を実施、障がいがある方でも見やすく使いやすいホームページにリニューアルすることができました。
- 今までは、有志の方に作っていただいたホームページを運用しており、ユーザーに不便をかけていた部分も多くありましたが、障がいのある方でも見やすく使いやすいホームページにリニューアルされ、便利になりました。また、適正な価格で障がい当事者にウェブアクセシビリティ診断の業務を担っていただくことができました。さらに認定NPO法人スペシャルオリンピックス日本・神奈川の活動を広め、応援してくださる方も増やすことができました。
- 今後も、ウェブアクセシビリティの勉強会などでの事例報告や、株式会社Nextwelが運営する、障がい当事者や福祉の専門家が発信するWebメディア「Welsearch（ウェルサーチ）」にて、認定NPO法人スペシャルオリンピックス日本・神奈川の活動や競技会の告知等で連携していく予定です。
- また、株式会社Nextwelは、引き続き、誰もが見やすく使いやすいWeb環境、ウェブアクセシビリティの認知拡大と仕組みの構築に取り組んでいきます。



No.8 都市公園の指定管理者と花苗栽培の就労支援事業所が連携し、障がいのある方が作った寄せ植えの鉢を公園内に設置

【実施主体】

横浜緑地株式会社×社会福祉法人開く会フラワーアーク

- 横浜市泉区に所在する社会福祉法人開く会フラワーアークは、社会福祉法人開く会が30年以上取り組んできた花苗栽培部門を拡大させ、2022年4月に独立してできた花苗栽培の就労支援事業所です。



- 横浜市磯子区に所在する都市公園「岡村公園」の指定管理者である横浜緑地株式会社は、2022年7月から、社会福祉法人開く会フラワーアークとの連携を開始しました。



- 岡村公園内にあるレストハウス前に、社会福祉法人開く会フラワーアークで働く知的障がいのある方々が作った寄せ植えの鉢を設置し、就労を支援する取組を始めました。

- この取組により、施設で働く人たちは納品や外部の方とのやり取りなど貴重な経験ができ、さらに賃金向上にもつ

ながっています。また、レストハウス前に鮮やかに彩られた花の寄せ植えを設置することで、来園者の目を楽しませることができます。

- これからも引き続き、季節の花を使った寄せ植えを設置していく予定です。



No.10 NPOが中学校と連携し、コーヒーの木の栽培を通じてSDGsや人権問題を学ぶ「SDGs学校農園プロジェクト」を実施

【実施主体】

特定非営利活動法人湘南DVサポートセンター×東京都世田谷区立用賀中学校

- ・藤沢市に所在する、DV（家庭内暴力）の被害者を支援するNPOである、特定非営利活動法人湘南DVサポートセンターは、神奈川県内や東京都内の小中学校でいじめ防止プログラムを提供してきました。その中で、SDGsの理解促進がいじめ防止のための人権教育になると着目し、コーヒーの木の栽培を通じてSDGsや人権問題を学ぶ「SDGs学校農園プロジェクト」を開始しました。
- ・コーヒーは、温暖化の影響で、2050年には収穫量が半減するといわれています。また、コーヒーは、開発途上国や紛争地帯での生産が盛んで、コーヒー栽培の陰には、輸入国との公正な取引を意味する「フェアトレード」や、生産現場での児童労働、女性差別、貧困・教育などの人権課題も抱えているとされています。
- ・2022年12月には、SDGs教育推進校である東京都世田谷区立用賀中学校の中学1年生及び中学2年生を対象に、特定非営利活動法人湘南DVサポートセンターが、コーヒー栽培を題材にSDGsと人権問題についてのワークショップを実施



しました。また、各クラスにコーヒーの苗を配付し、生徒たちはコーヒーの苗を育て、卒業時にはコーヒーの実を収穫することを目標とし、継続的に取り組むプロジェクトに取り組んでもらうことになりました。

- ・用賀中学校では、今後も毎年取り組んでいく予定で、また、2023年度は、都内の他の中学校や高等学校、藤沢市内の中学校や高等学校でも「SDGs学校農園プロジェクト」を開始し、この取り組みを広げていく予定です。

No.11 一般社団法人が小学校と連携し、校庭での森づくりや森の講座等の環境教育を継続して実施

【実施主体】

非営利型一般社団法人 Silva×葉山町立葉山小学校

- ・非営利型一般社団法人 Silva は、2019 年から、葉山町立葉山小学校の 5 年生を対象に、総合学習の時間に、森の役割や機能を学ぶ『森の講座』を始めました。
- ・コロナ禍が長期化する中、葉山小学校の先生から、小学校の校庭で森づくりの体験の場を作れないかという相談があり、非営利型一般社団法人 Silva は、



公益社団法人国土緑化推進機構の助成金を使い、



小学校の校庭内の一部（面積 21 m²）を土地本来の森を再生する場所とし、小学校の児童とともに森づくりを開始。前年に座学で森の講座を学んだ小学 6 年生 130 名の手で、潜在自然植生種 130 本を植樹し、その場所は『葉っぱいの森』と命名されました。

- ・植樹祭の前には、児童が昼休みや放課後に自主的に準備を手伝い、また保護者は植樹祭当日の様子を熱心に撮影していただきました。

- ・『葉っぱいの森』は保護エリアとして、葉山町役場へ届出をし、小学校の各学年で森のメンテナンスや木の生長の観察など、環境教育の題材とする予定です。コロナ禍で行事が全て中止となる中、とても貴重な野外体験型の環境教育の場となりました。2023 年現在も非営利型一般社団法人 Silva は葉山小学校と連携し、『森の講座』など環境教育を続けています。



- ・また、非営利型一般社団法人 Silva は、この活動等、環境教育活動が評価され、「環境」「人・社会」「地域」を思いやった考えや行動を葉山町が産官民連携で推進する SDGs プロジェクト『はやまエシカルアクション』の賛同団体となっています。

No.12 NPOと地区社会福祉協議会が連携し、地域の高齢者を対象にした交流会にて「脳トレリズム体操」のレッスンを実施

【実施主体】

箱根町仙石原地区社会福祉協議会×NPO法人ダンスライフコミュニケーションズ

- ・箱根町仙石原地区社会福祉協議会とNPO法人ダンスライフコミュニケーションズが連携し、神奈川県いのち・未来戦略本部室の「コミュニティ再生・活性化モデル事業」第3期の事業として、箱根町仙石原地区社会福祉協議会が2022年11月に開催した「令和4年度ふれあい交流会」において、NPO法人ダンスライフコミュニケーションズが、仙石原地区に住む70歳以上の高齢者を対象に「脳トレリズム体操」のレッスンを対面で行いました。



- ・この「脳トレリズム体操」は、生活習慣病、認知症予防、運動不足の解消を目的として姿勢調整と血流を促し、座位による手指の動きや、左右対称非対称の動きの違いを考えながら行うゲーム感覚の体操です。
- ・「令和4年度ふれあい交流会」は、仙石原文化センターホールにて対面で開催されましたが、交流会のテーマは、「SDGsを自分事として、健康・癒し・環境そして交流」で、仙石原地区が支えあい、誰ひとり取り残さない、交流の絶えない地域とするためのきっかけとして開催されました。
- ・今回のレッスンは、対面で開催された「交流会」ということで、お喋りを交えながら45分間レッスンを行いました。NPO法人ダンスライフコミュニケーションズの講師が舞台から約70名の参加者を指導する形となり、参加者とは距離があるため、交流会の会場の椅子の設置や、食品ロス軽減のための食品配布の準備に講師も参加することで、参加者と交流を図りました。
- ・交流会は3年ぶりの開催でしたが、参加者には楽しんで体操に取り組んでいただき、参加した高齢者の笑顔やはつらつとした姿がとても印象的で、その実施効果は当初の予想をはるかに上回るものとなりました。また、NPO法人ダンスライフコミュニケーションズをはじめ、地域の自治会、民生委員、さらには観光協会や各種ボランティア団体等、さまざまな立場の方からの協力を得て開催し、「仙石原地区が支えあい、誰ひとり取り残さない、交流の絶えない地域とするためのきっかけ」に大いに寄与することができました。



※ NPO法人ダンスライフコミュニケーションズ (DLC) <https://dlc.themedia.jp/>

No.13 三浦半島での災害に備え、三浦・葉山地域における防災活動団体の連携

【実施主体】

横須賀災害ボランティアネットワーク×逗子災害ボランティアネットワーク×葉山災害ボランティアネットワーク×そなえるネットワークみうら

- ・横須賀災害ボランティアネットワーク、逗子災害ボランティアネットワーク、葉山災害ボランティアネットワークは、以前より、交流会を開く等、災害時の広域連携を念頭に置きながら、ともに活動をしています。2021年、そなえるネットワークみうらもその中に加わりました。
- ・現在は、各自がそれぞれの地域で防災活動を行う団体として、日ごろの活動等について情報交換しながら、団体のイベントに招待したり、参加したりしています。
- ・2022年4月には、葉山災害ボランティアネットワークが主宰した「災害発生時の対応体験会」（土のう作り等の勉強会）に、そなえるネットワークみうらが参加しました。
- ・今後も、三浦半島に所在する防災活動団体として、三浦・葉山地域で災害が発生した際はお互い速やかに連携できるよう、日ごろから交流していきたいと考えています。

No.14 乳がん予防啓発団体と企業が連携し、社員向け乳がん講座の開催や乳がん予防啓発事業の取組みを支援

【実施主体】

KDD I 株式会社×一般社団法人乳がん予防医学推進協会



- 一般社団法人乳がん予防医学推進協会は、検診環境整備、セミナー、イベント、ブレストアウェアネス教育事業*を通じ、乳がんに対する認知度を上げ、受診者が安心できる乳がん検診の提供やいまだ低い乳がん検診率の向上を目指す、医療現場で乳がん検診、診療に携わっている診療放射線技師等の医療従事者が立ち上げた団体です。
- 2021年2月開催の「スタディツアー」で一般社団法人乳がん予防医学推進協会が参加者へ協会の取組みを紹介したところ、参加していたKDD I 株式会社の社員が一般社団

法人乳がん予防医学推進協会の取組みに賛同。2021年7月には、乳がん予防医学推進協会のメンバーが講師となり、全国のKDD Iの社員向けに「社員向け乳がん予防啓発に関するオンラインセミナー」を開催しました。また、2022年6月にも、乳がん予防医学推進協会の臨床検査技師の資格を持つメンバーによる「社員向け乳がん講座」をオンラインで開催しました。



- この社員向け講座は、全国のKDD I社員にオンラインで配信され、社員191名（うち9名が男性社員）の参加があり、事前にたくさんの質問もいただくなど、社員の関心が高く、とても有意義な講座となりました。



- また、啓発事業の一環として、乳がん予防医学推進協会主催の絵画コンクールに、2021年度からKDD I 株式会社も協賛企業として参画し、応募作品の中からKDD I 賞を設定、またKDD I 社内でコンクールへの応募者を募り、地域の乳がん検診啓発活動に貢献しました。引き続き、KDD I 株式会社は乳がん予防啓発事業の取組みを支援していく予定です。

※ ブレストアウェアネス教育事業とは、乳がん予防のために、自分の乳房の状態に日ごろから関心を持ち、乳房を意識して生活することを普及啓発する事業。



No.15 アートで地域を盛り上げよう！高校と鉄道会社と地域の企業の協働

【実施主体】

県立小田原城北工業高校×株式会社デコリア×伊豆箱根鉄道株式会社×小田原フラワーガーデン

- ・ 県立小田原城北工業高校デザイン科の生徒たちは、例年地域のお祭りのポスター作成やイベント運営を通じて日々の勉強の成果を見せる場がありましたが、新型コロナウイルスの影響でイベントが中止となり、活躍の場・表現の場が失われてしまいました。
- ・ そうした地元の高校生の厳しい実情を知った株式会社デコリアが、「限りある高校生活を充実したものにしてあげたい」、「地域企業としてコロナ禍の今だからこそ出来ることがあるのでは」という思いから、以前より交流のあった小田原フラワーガーデンと伊豆箱根鉄道株式会社に呼びかけ、2020年度から地元異業種企業と高校の4者が連携する協働事業がスタートしました。
- ・ 2020年度、2021年度に引き続き、2022年度も「アートで地域を盛り上げよう2022」プロジェクトとして、県立小田原城北工業高校デザイン科の生徒が、小田原フラワーガーデンで行うイベント『Tropical Dome Twilight Mission』の告知を、株式会社デコリアが製造した黒板壁紙『Blackboard』※を用いて制作し、伊豆箱根鉄道大雄山線飯田岡駅に掲示しました。
- ・ コロナ禍がきっかけとなりスタートした地元3企業と高校の連携事業ですが、今後も継続して連携し、高校生にとっての仲間との絆を深める場、成功体験の場、また地域活性の場として大切にしていきたいと考えています。



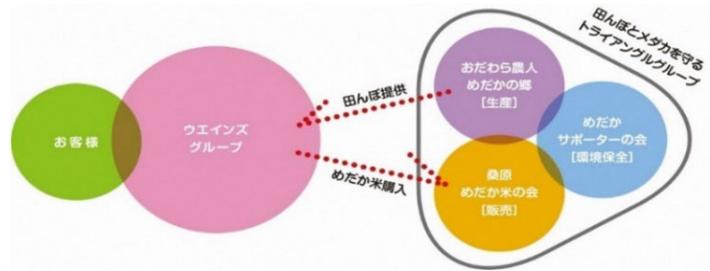
※ 『Blackboard』とは、株式会社デコリアが製造し、株式会社サンゲツが販売するグッドデザイン賞・キッズデザイン賞・神奈川なでしこブランド認定商品になった、黒板のようにチョークで自由に描き消しできる壁紙。

No.16 団体や企業が「めだか米」を通じて地域の田んぼとメダカを守る

【実施主体】

ウエイズトヨタ神奈川（横浜トヨペット・トヨタカローラ神奈川・ネットトヨタ神奈川）×一般社団法人桑原・鬼柳めだか米の会×一般社団法人おだわら農人めだかの郷×めだかサポーターの会

- 「めだか米^{※1}」を生産する一般社団法人おだわら農人めだかの郷^{※2}、「めだか米」を販売する一般社団法人桑原・鬼柳めだか米の会^{※3}、メダカが生息する水路や田んぼの環境保全を行うめだかサポーターの会^{※4}の3団体が協働で、地域の田んぼとメダカをはじめとした生態系の保全活動を行っています。



- さらに2015年からは、神奈川県内のトヨタ販売店のウエイズトヨタ神奈川が、お客様へのプレゼントとして「めだか米」を購入、それと並行して「めだか米」の活動を告知するなど、地域の農業や環境保全を支援しています。
- また、ウエイズトヨタ神奈川では、お客様とご家族、グループの社員に「めだか米」の田植えや稲刈りの農業体験を提供することで、環境保全に対する意識の高揚にも貢献しています。
- 2021年度に続き、2022年度も、めだか米の活動が保険会社の「いきものが住みやすい環境づく



り」の応援プロジェクトに選定されたことから、5月には多くの企業や団体の協力のもと「みんなで田植え大作戦!!」というプロジェクトで田植えを実施、10月には、稲刈りイベント「みんなで稲刈り大作戦!」を実施し、100名以上の方に参加していただく等、活動が広がっています。

- これからも多くの団体や企業で支え合い、「めだか米」を通じた地域の農業振興、環境保全に取り組んでいきます。

※1 「めだか米」は、酒匂川の水と豊富な湧水を用いて小田原市桑原地区で生産された「キヌヒカリ」「はるみ」等のお米の総称です。

※2 「一般社団法人おだわら農人めだかの郷」は、野生メダカが生息する小田原市桑原地区の休耕田を引き受け、メダカをはじめとした生き物と共生する田んぼで「めだか米」を生産しています。

※3 「一般社団法人桑原・鬼柳めだか米の会」は、桑原地区の「めだか米」を販売して地域経済と生態系の保全を支えています。

※4 「めだかサポーターの会」は、メダカが生息する水路や田んぼの環境保全、ピオトープづくり、外来生物の侵入を監視するパトロール、小学校への出張授業やイベントでの教育啓発活動等を行っています。



No.17 見方を変えて、味方になろう！～発達に多様性のあるユニークな子どもたちを応援するため、地域に根差した店舗でのイベント開催～

【実施主体】

いろいろなカタチ鎌倉×MUJIcom ホテルメトロポリタン鎌倉



・いろいろなカタチ鎌倉は、発達が多様でユニークな子どもたちに対する理解啓発を目的に活動しているお母さんたちの市民団体です。

・多様に富んだ子どもたちの中には、困りごとや生きづらさを抱えていることがあります。それは本人のせいでもなく、周りのせいでもないこと、また一人ひとりの見方を変えるだけでも、みんなが生活しやすい環境が生まれるということ子ども自身や子どもの周りにいるみんなに知って理解してもらうために、『いろいろなカタチ新聞』を発行するなど、発達支援に関する情報を発信しています。

- ・MUJIcom ホテルメトロポリタン鎌倉と協働で、店舗のオープンスペースで 2021 年 3 月に「いろいろなカタチ展」を開催しましたが、2021 年 11 月には「いろいろなカタチ展 vol. 2」を、2023 年 2 月には「いろいろなカタチ展 vol. 3」を、同じオープンスペースで開催しました。
- ・「いろいろなカタチ展 vol. 3」のテーマは、「あなたのこと、おしえて！～じぶん説明シートをつくろう～」。いつもの自己紹介よりもう少し詳しく自分のことを伝えるシートを作成するというワークシートを設けました。鎌倉市内だけでなく、県外からも来られる等、多くの方に来場して見ていただくことができ、大変盛況でした。



- ・また今回から、いろいろなカタチ鎌倉の活動に賛同し、サポーター登録して下さる方、発達が多様でユニークな「いろいろなカタチ KIDS」の味方になっていただける方に、ミカタ(味方)ステッカーとカードをお渡しする取組を始めました。
- ・これからもより多くの方に発達の多様性の理解が広がるよう、色々な形で情報発信していく予定です。

※ 『いろいろなカタチ新聞』バックナンバー（下記の2か所からダウンロードできます）

① 「いろいろなカタチ鎌倉」 URL <https://katachi0467.jimdofree.com/> 左記 URL の二次元コード↓



② 鎌倉市 HP URL

<https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/chikyo/ironnakatatishinbun.html>

No.18 コロナ禍でも子どもの心を育てる音楽発達支援で団体と企業が協働連携

【実施主体】

一般社団法人音楽発達サポート協会×株式会社ココラボ

- ・一般社団法人音楽発達サポート協会は、音楽を通じ、発達障がい児の言葉の発達とコミュニケーション力を高めながら持って生まれた能力の可能性を広げ、創造力豊かな表現ができるように支援する団体です。
- ・コロナ感染症の影響を受けて、発達障がい児を含め多くの子どもたちが集団の場で自分を表現する機会が失われました。そのような状況のなかで一般社団法人音楽発達サポート協会は、発達障がい児の教育に関わる親や保育者、教育者が音楽発達のスキルを獲得できる「音楽発達アプローチ」という、オリジナルプログラムを作成しました。このプログラムは私たち指導者と親御様が30年かけて実践して蓄積したデータがもとになっています。この資料を体系化した新しいプログラムの制作にあたり、2019年度のスタディツアーで出会った株式会社ココラボ（旧社名：株式会社協進印刷、2022年9月に社名変更）に、支援者スキルセミナーのパンフレット、資料、教材、セミナー動画等の作成を協力依頼することにしました。
- ・株式会社ココラボは、コミュニケーションに関する様々な課題に対し、印刷物、デジタルメディア、広報企画、ソーシャルマーケティング等の手段を用いて解決する「ソリューション・プロバイダー」として地域に貢献し、CSRの普及啓発、企業による社会課題の解決を後押ししている企業です。
- ・セミナーの内容を分かりやすく伝えるため、デザインやレイアウトにこだわって「音楽発達アプローチ」のプログラムを作成したことで、コロナ禍での音楽発達支援の新たな道が広がりました。2022年7月からはこのプログラムを使って、公開ピアノレッスンやクリスマス発表会を開催し、9月からは新たに「1歳からの親子グループレッスン」もオンライン開講するなど、一般社団法人音楽発達サポート協会の会員の親子の皆様にご体験いただきました。今後は、会員の方だけではなく、より広く親御様や支援者の方々に興味を持っていただけるよう、活動を展開したいと考えています。
- ・今後も、引き続き、株式会社ココラボと協働で、子どもの五感に訴える教材や資料を作成して、コンサートやイベントで活用しながら、発達障がい児やその親、保育者、教育者へのサポートを広げていきたいと考えています。



No.19 横須賀市の職員が繋ぐ大学ゼミと地元農家・企業の地域課題解決

【実施主体】

一般社団法人 KAKEHASHI × 立教大学法学部薬師丸ゼミ住民班 × たのし屋本舗 × 鈴也ファーム × ブロ雅農園 × Bell Tree Farm × 井上農園 × 株式会社 MITO CREATIVE × 株式会社良品計画 無印良品コースカベイサイド横須賀店



- ・立教大学の薬師丸ゼミが、横須賀市の地域課題解決をゼミの研究テーマとして取り上げることになり※、ゼミとつながりがあった一般社団法人 KAKEHASHI が、地元の農家や企業等関係団体とゼミの学生を結びました。
- ・なお、一般社団法人 KAKEHASHI は、横須賀市職員が、熱い思いを持つ人々を繋げ思いを実現する架

け橋となり世の中をもっと良くすることを目的として、市長に直談判して承諾を得、副業として設立した法人です。

- ・2020年8月からの関係者による勉強会で挙げた「規格外野菜は適正価格でやりとりされていない」という現状や「変形やキズ等の理由で出荷できない野菜は畑に廃棄している」という課題を解決するため、ゼミの学生の提案で、鈴也ファームの規格外野菜を使ったピクルス「Pickles Beauty」を作ることにしました。
- ・コロナ禍での「家飲み」需要を踏まえ、色彩豊かなニンジン・カブ・大根の素材を生かし、ポリフェノールを含みヘルシーな白ワインのビネガーを使い、ハートの形に型抜きしてSNS映えするピクルス作りを提案。野菜のカット方法、液の味、容器の形状や色、タグのデザインなど、商品のほとんどを学生が考案し、地元企業であるたのし屋本舗が製造加工、株式会社 MITO CREATIVE がタグデザインの補助として協力しました。
- ・半年ほどかけて形になったピクルスは、無印良品コースカベイサイド横須賀店において、2021年4月、2022年2月に引き続き、2022年12月にも2日間限定で100



個を販売しました。当日は、立教大学の学生が店頭で販売しました。

- ・取組を通じた成功体験や失敗等の経験を積むことで、学生たちが卒業後の仕事に活かせる活動にしてもらえればと思っています。
- ・なお、野菜の収穫状況によって製造量や時期を決

めているため、次の販売日は未定ですが、若い学生たちのセンスが活かされた商品で新たな販路ができた上、食品ロスをなくす加工食品の開発は大事な課題であることから、ピクルスの継続販売や新たな商品開発など、引き続き活動を継続していきたいと考えています。

※ 4年前に行われたゼミの研究地選定の際、ゼミ生の中にいた横須賀市の学生がゼミの研究地として横須賀市を推薦し選定されました。

No.20 子育て家庭を地域の飲食店や事業所、農園と連携して応援する“子ども弁当”

【実施主体】

NPO法人湘南まぜこぜ計画×中華料理三番×藤沢本町たいこや×よしえめし×Nico's Kitchen×ほうとうの店元祖へっころ谷×駅前直売所八〇八カフェ×はっぴーあわー×レストラン リッシュ×坊さんキッチンen×和食ダイニング七彩×光友会×おむすびだigo×ハウス・もん×ミンナミ食堂×香港軒×ぐるんとびー×居酒屋・和食の店 まるま×からあげ専門店 鶏笑×まるほ農園

- ・小中学生を対象とした学習支援や子どもが自由に過ごすことのできる居場所“寺子屋ハウス”を運営するNPO法人湘南まぜこぜ計画では、経済的な事情や、仕事、病気等で食事の用意が困難な子育て家庭を地域で応援する事業として、その想いに賛同した地域の飲食店や農園と連携した“未来食堂”事業を実施しています。
- ・“未来食堂”事業の一環で、2020年度、2021年度に引き続き、2022年度も、コロナ禍での子どもたちの食を支援するため、7～8月の夏休み期間及び12～1月の冬休み期間、昼食の用意が難しい家庭の子どもに、事業に賛同した店舗等が作ったお弁当を



100円で提供する「子ども弁当」を期間限定で実施しました。新しい飲食店や事業所とも提携しながら、夏休み期間は延べ900人、冬休み期間は延べ24人の子どもたちにお弁当を提供することができました。

- ・2018年度から始めた事業ですが、基金を運営してお店に支払う経費の寄附を募り、また市の補助金、様々な団体の助成金や寄附を活用して事業を実施しています。
- ・引き続き、地域の飲食店、事業所、農園との連携を広げつつ、地域の子育て家庭を応援していきます。

No.21 酒匂川に関する環境保全の目的でつながった企業とNPOの連携

【実施主体】

株式会社神鋼環境ソリューション×めだかサポーターの会

- ・酒匂川流域の下水処理に携わる企業として、水環境保全や地域住民との相互理解を深める取り組みを模索していた株式会社神鋼環境ソリューションと、酒匂川水系に生息し神奈川県内で唯一生息する野生メダカ（絶滅危惧種）保全活動に参画してくれる人を求めていためだかサポーターの会が、2019年10月開催の「企業・NPO・大学パートナーシップミーティング」で出会い、一緒に活動を始めました。



- ・株式会社神鋼環境ソリューションの社員の有志が、めだかサポーターの会の実施する田植え、外来種駆除、パトロール、草刈り、稲刈り、清掃等の活動に参加し、一緒に活動を行っています。
- ・また、株式会社神鋼環境ソリューションは、活動用具として軍手、ゴム手袋、ゴミをつかむトング等の寄贈も行っています。
- ・この協働連携を行うことにより、めだかサポーターの会としては、ボランティア人員の確保、活動用具の寄贈による資金面の支援、株式会社神鋼環境ソリューションの若い社員が参加することによる組織の活性化に繋がっています。また、下水処理場の運転管理を担っている株式会社神鋼環境ソリューションは、処理水放流先の酒匂川の水質環境、生態系の保全に大きく繋がっていることを実感でき、



社員のやりがい、モチベーションや業務パフォーマンスの向上と共に、社員レクリエーション環境の創出に繋がっています。

- ・今後もこの活動は継続する予定で、株式会社神鋼環境ソリューションの担当者は、現在は個人でめだかサポーターの会に入会し、運営役員としても活動しており、多岐にわたる活動を継続して連携していく関係が構築されつつあります。

No.22 手話通訳団体と福祉従事者等へのIT支援NPOがコロナ禍で協働

【実施主体】

横浜市手話通訳奉仕団たつの会×特定非営利活動法人NPO福祉支援ゆうやけネット

- 横浜市手話通訳奉仕団たつの会は、手話サークル活動と、横浜市から委託された手話講習会を開催する団体です。
- 特定非営利活動法人NPO福祉支援ゆうやけネットは、福祉従事者や地域に暮らす様々な補助が必要な人へ、パソコン・スマホ・SNS・Zoom等の講習会、ホームページ制作サービス等のIT支援や相談、情報提供を行っている団体です。
- 5年前に、横浜市手話通訳奉仕団たつの会が特定非営利活動法人NPO福祉支援ゆうやけネットに、リニューアルしたホームページの運用管理等を依頼したことがきっかけで、横浜市手話通訳奉仕団たつの会が特定非営利活動法人NPO福祉支援ゆうやけネットの勉強会に参加し、パソコンやスマホの活用や技術サポートを受けながら、市民活動を円滑に遂行するための協働が続いています。
- 2020年度、2021年度に引き続き、2022年度も、コロナ禍により会場での活動が中止になった際は、ホームページによる動画配信に変更しましたが、横浜市手話通訳奉仕団たつの会が動画を撮影、その動画を、特定非営利活動法人NPO福祉支援ゆうやけネットが、参加者専用のホームページで限定公開しました。2022年4月から2023年3月までの間で、数回の動画を配信。両団体が連携することで、オンラインによる手話講習会を実施することができました。
- また、2022年度には、横浜市手話通訳奉仕団たつの会が、講習会で聴覚障がい者向けのスマホアプリをプロジェクターに表示させる際、スマホの基本OSバージョンアップによるトラブルへの対応を、特定非営利活動法人NPO福祉支援ゆうやけネットが対応する等、横浜市手話通訳奉仕団たつの会のIT業務を支援しました。
- 今後も、特定非営利活動法人NPO福祉支援ゆうやけネットの勉強会に横浜市手話通訳奉仕団たつの会のメンバーが参加する等、市民活動のさらなるステップアップのために連携して活動していく予定です。

手話入門コース 動画一覧
はじめて、「手話入門・基礎動画1 発音の発音と今後について」をご覧ください。

手話入門・基礎動画1 発音の発音と今後について



手話 入門 動画2 挨拶表現 (1)



手話 入門 動画3 挨拶表現 (2)

No.23 「寄付でつなぐ未来へのバトン2022」寄付月間賛同企画イベントの開催

【実施主体】 寄付月間 2022@日本大通実行委員会※¹

- ・ 寄付月間※²の趣旨に賛同した 11 の団体・個人が実行委員会をつくり、体験イベントなどを通じて、未来をよくする寄付について考えるイベントをそれぞれ企画し、各団体・個人の会場やオンライン（Zoom、Web、YouTube 等）で開催しました。
- ・ 寄付月間としての協働企画 5 年目となった 2022 年は、12 月 1 日から 2023 年 2 月 28 日までの 3 か月間を開催期間としました。また、今まで会場にしていた Kosha33 の工事に伴い、賛同企画の実施は、それぞれの団体や個人が別々に行いました。コロナ禍 3 年目の賛同企画数は 18 で、オンラインを併用しつつも対面開催のイベントが増え、参加者の声と笑顔がそれぞれの会場で見られました。



- ・ 例えば、元町にある老舗の生花店で、作家さんが作成したこども服や小物などのクラフト作品を販売して売上から寄付する「チャリティクリスマスマルシェ」の開催、山下公園で走った距離に応じた金額を地域のNPOなどに寄付をする「チャリティランプロジェクト」など、多数の方に参加していただくことができました。

- ・ また、全国的に寄付月間を推進している寄付月間共同事務局の主催で 2023 年 3 月に開催された『寄付月間 2022』寄付月間大賞表彰式では、「賛同パートナー賞」をいただきました。受賞理由は、「寄付月間中の情報発信を積極的に行い、また、毎年、複数の賛同企画を実施している」ことでした。
- ・ 2023 年も新たな気持ちで寄付月間の賛同企画として実施する予定です。

※¹ 寄付月間 2022@日本大通実行委員会 認定NPO法人地球学校/認定NPO法人スローレーベル/THE RABBITS' BASE/Kosha33 ライフデザインラボ/そな YELL ラボ/NPO法人 Sharing Caring Culture/理科クラブ/I am a Runner PLUS ウッチー/NPO法人日本補助犬情報センター/SAISEKI グループ/ストレッチョガ Laugh!金原美帆

※² 寄付月間 (Giving December) は、NPO、大学、企業、行政など寄付に係る主な関係者が幅広く集い、寄付が人々の幸せを生み出す社会をつくるために、12 月を中心に、協働で行う全国的なキャンペーンです。

